

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム にこトピア浄法寺

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300019		
法人名	株式会社 サンメディックス		
事業所名	グループホーム にこトピア浄法寺		
所在地	岩手県二戸市浄法寺町上前田34番地		
自己評価作成日	平成 29年 6月 日	評価結果市町村受理日	平成30年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0391300019-00&PrEfCd=03&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29年 6月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小学校を改築して福祉施設として開業している。小学校の雰囲気を残し、来客からも懐かしを感じる声も聞かれている。敷地も広大であり、且つ車通りも少なく天候の良い時は利用者と散歩、行事と安全性に配慮した支援を行っている。施設管理面では地元消防団の協力を得ており、合同での避難訓練、災害時の協力を得ており、地域密着として活動をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは高台にあり、広いグラウンドは利用者の散歩や小規模多機能型居宅介護の利用者との交流の場となっている。28年度は理念を基に事業計画を立て、「おもてなしの環境づくり」や「地域との直接かかわりの増加」など、年間を通して、方針に沿った取り組みを行っている。職員は利用者やゆったり過ごす時間を大切にしながら、何でも話せる雰囲気作りを工夫しており、家族からも家庭的と感謝が寄せられている。園芸療法やリハビリ体操、回想法を介護サービスの特徴としており、花壇づくりや草取り、全身の機能体操、おやつ時間に昔のメロディーを聞く等、心身機能の維持向上を促し、生活の質を高めるよう取り組んでいる。運営推進会議や地域消防団の協力、地域住民による冬場の除雪協力など地域との結びつきも強い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業計画を職員との話し合いで作成しており、目標をたて、全体で取り組んでいる。取り組み事項を毎月評価し、常々意識して業務を行っている。	法人の理念「おもてなしの精神を持ち地域に貢献する」をもとに、28年度は計画を立て、「環境づくり」として、野菜作りや花壇の美化を、「地域との共存共栄」としては事業所周辺の草刈やゴミ拾い等に毎月確認しながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺の環境整備を地域住民と共同で実施している。施設としては周辺のゴミ拾いを行い地域住民との交流を図っている。	地域住民と共同でゴミ拾いや草刈作業を行っている。また中学生による体験学習やボランティアによる踊りの訪問等があり、冬場には除雪をお願いしている。地域の元気な高齢者が減る中、地域に新たな関わりを働きかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政を通じてパンフレットの配布、見学を通じて理解していただくよう説明をしている。他、学生による体験学習を通じて認知症利用者に関わる機会をつくっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議メンバーと議題を提案して意見交換をしている。メンバーからもアドバイスをもらい、より良い運営に役立っている。	会議では、ホームの状況や活動報告を行い、委員からは活発な意見や提言がある。感染症対策や冬場の除雪の確認の他、ホームと家族の積極的な関わりについての提言があり、家族会等の呼びかけを行っている。	会議開始前の僅かな時間を利用した利用者との交流により、利用者は馴染みの関係が増え、委員の認知症への理解も深まるもと考えられる。また事業所全体のコミュニケーションやスタッフのスキルアップの機会として職員の参画も一考と考える。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	渉外活動を通じて事業所の説明、近隣事業所の状況について情報交換をしている。	運営推進会議のメンバーでもあり、毎月支所へ訪問し、直接事業所の運営状況や利用者の状態を説明し、助言を得ている。地域ケア会議には管理者が、広域ケアマネージャー会議にはケアマネージャーが出席し情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を開き、知識の教養をしている。	身体拘束をしないケアについては、毎年内部研修を実施している。多忙の時つい「ちょっと待って」という事があるが、納得できる言葉を添えるなど互に注意し合っている。外出への希望には同行し自由な暮らしを支えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を開き、知識の教養をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護勉強会を通じて知識の教養をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項をもとにご家族の方に説明をしている。不明な点、質問事項を確認しながら話しを進めており、理解をしていただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、来設者からの意見を聞き取れるようにしている。他、直接会話にて要望を聞き、建設的に話しをすすめている。	利用者とゆったり過ごす中で、要望の把握に努めており、買い物や食べ物の好き嫌いなどの要望がある。また、来訪時や運営推進会議、受診時等に家族と話すなかで要望等を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場を設け職員の意見を反映するようにしている。支援では早急に対応する場合は申し送り時にカンファレンスをして、早期対応をしている。	毎月開催する職員会議で意見を聞き運営に反映させている。台所の改修や備品購入、支援に関する工夫等のほか、勤務体制等働きやすい環境に配慮している。会社の判断を要する案件は会社に諮り対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤簿、勤務表の他に労働者名簿を作成し、職員個々の状況を把握している。定期的に考課して雇用形態の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内、外研修の実施により個々職員のスキルアップに繋がる活動をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	渉外活動、地域会議の参加により直接的関わりをもっている。情報交換をして施設サービスの向上に繋げられる事項は取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期時、マンツーマン対応にて利用者が発する内容、行動に合わせて不安にならないよう関わりをもっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所面談時に利用者、家族の要望を聞きケアプランに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所面談、検討会議を開き、初期支援を想定したうえで支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホールにソファを設置しており、利用者同士が身近に関わりをもてるよう配置している。職員も間にはいり、利用者との接点をもてるようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診後の報告、広報、定期的な連絡により家族との関わりが切れないように関わりをもっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	広報、電話を通じて近況報告をしている。面会の機会をつくる為に四季に合わせた着替えのみ預かり、利用者と家族が疎遠にならないようにしている。	家族の他、親戚や友人が訪れ、希望により自宅に電話を掛けている。家族と公園へ行ったり馴染みの美容院へ行く利用者もいる。離れている家族とも会えるよう季節ごとに着替えを届けてもらうほか、広報や電話で近況を知らせている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩、行事をして、全体で活動する機会をつくっている。他職員が利用者との間に入り、会話のきっかけづくりをして関わり合いの機会を増やしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族の要望に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、利用者の思い、家族の思いを聞き取り、希望に沿ったケアプランを作成して支援に繋げている。聞き取り困難な方は家族からの情報をもとに支援している。	利用者やゆったり過ごす時間を大切にしている。また入居時の相談記録や家族、親戚からも折に触れ話を聞くなどして、本人がどのように安心して暮らしたいか職員とも話し合い、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴をもとに関わりをもっている。新たな情報収集として、面会の方からも以前の暮らしの情報を得て、支援に活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状況に合わせ、申し送り、ケアカンファレンスで方向性をだし、その時に合った支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを開いており、現状に即した対応をしている。	日々の記録を基に毎月ケア会議を開き、全職員で気づきや意見をまとめたうえでケアマネージャーが介護計画を作成している。6か月ごとにモニタリングを行っており、変化が生じた時は必要に応じて、計画の見直しを行い家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡帳を活用して、その時に即した対応を話し合い対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	合同行事の企画、実施。併設事業所へ足を運び異なった環境で普段関わりのない方との交流機会をもつようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物の同行、ドライブなど地域に出向き交流を図る事で生活の行動範囲を広げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診、緊急時の対応、不明な点の相談とかかりつけ医、看護師へ常時相談をできる体制となっている。	2名は今までのかかりつけ医であるが、ほとんどは浄法寺診療所である。通院時は家族に同行してもらい緊急時は職員が対応している。利用者の情報は文書や口頭で伝え、結果について不明な点は医師へ直接確認し、利用者の適切な医療に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へ変調を伝え、医学的根拠のもと介護職に方向づけをしている。緊急性が高い場合は指示をもらい対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、介護サマリーを即時発行して病院へ情報提供をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、重度化の指針のもと、家族へ説明している。その際、重度化した場合を想定し、展開についても話しをしている。	入居時に事業所が対応できる範囲について本人、家族に説明し理解を得ている。緊急時は看護師と診療所の連携の下で24時間365日オンコール体制を整えている。現在は医療体制が未整備の環境にあり、現状では看取りについては支援困難と認識している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル、AED講習を通して実践時の想定をたてている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルをもとに対応できる体制をとっている。地域消防団員との協力関係も築かれており、災害時も地域として活動できる体制である。	運営推進会議の委員である分団長や地域消防団の協力で薄暗い中での訓練の結果、不安を伴い予定より5分オーバーするなど課題と対策案が得られた。発電機や備蓄も用意されており、防災頭巾をホールに備え万全を期している。	誘導灯と併せ木製の誘導版が設置されているが、利用者にとっての分りやすさと安全のために、できれば誘導灯のみの設置とする事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇勉強会、マニュアルをもとに利用者一人一人に対して人格を理解して個々に合わせた対応をしている。	一人ひとりに合った自分らしい生活を尊重しており、寝起きから日中の過ごし方まで個々に合わせている。支援では語気に気をつけ、ゆとりを持った関わりを心がけ、感謝の言葉や褒め言葉にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の選択、希望に沿った散歩、買い物と利用者の要望に合わせた対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入起床については個々に合ったペースに合わせて対応している。居室にはラジオなど生活歴を辿った馴染みの物を置き、個人個人のペースで生活できるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、行事の際、一人一人の確認をとり、自己決定のもと、更衣をしている。意思の伝達が困難な方に対しては家族、親戚の方より既往の趣向の色あい、柄の情報をもとに衣類選択をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを作成する際、利用者の好みを聞き作成している。苦手な食材がある場合は省き、異なる食事を提供している。	食事は職員がバランスを考えた献立を作る。利用者の好物を聞き作ると、「やっぱりうめー」と喜び食事は大きな楽しみの一つとなっている。利用者は食材の買い物や下ごしらえから配膳、下膳迄、できる範囲で役割を果たしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェックをしており、日々の状況を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員見守りのもと、各利用者が口腔ケアをしている。困難な方についてはガーグル、口腔ケアシートを使用して、極力、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿、便意のない方に対しては定期的に誘導をして自然排泄をするように支援している。自立している方に対しては時間をみて尿意の確認をしている。	日中は全員がトイレで、3人は布パンツとパット、5人がリハビリパンツとパット利用である。見守りが必要な人は、チェック表を確認しながら誘導介助しており、夜間もほとんどがトイレを使用するなど、気持ち良い排泄の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの方には乳製品の提供、服薬では医師に相談をして、下剤の処方により便秘の改善に向けたケアを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間の制約をせず、一人一人のペースにあった入浴をしている。	週2日午前中(時には午後)入浴している。季節に合わせた入浴剤を使用し、自分のペースで気持ち良く入浴している。職員は見守り中心の介助を心がけ、機能低下のある利用者も安心して入浴できるよう椅子も整備されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間の制約をせず、利用者各々の時間に合った入起床をしていただいている。興味のひく番組がある場合、先に内容を伝えてテレビを観覧してその方のペースにあった時間を過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をもとに服薬の効能、副作用、注意点を理解して皆で共有している。不明な点は看護師に確認をとり説明をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者状況により全ての方ではないが、可能な限り利用者の方々に役割をもって頂いている。自ら率先して行動されており、職員と一緒に行動している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見て利用者の要望があった際、散歩、買い物の同行と出向く機会を設けている。利用者から家族への依頼があった際は連絡をして協力を頂いている。	天気の良い日はグラウンドを散歩したり、玄関先の長椅子で心地よくくつろいでいる。季節により天台寺などへ花見や紅葉狩りに出かけ、個別の要望で買い物やドライブにも出かけている。家族にも外出の協力依頼をするなど、外に出る機会を増やす工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事では金銭のやりとりを直接しており、日常生活に近い環境に配慮している。日常の買い物では動向時、選択して買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、利用者がいつでも利用できるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった掲示物をしている。掲示物も利用者で作成しており、季節を認識していただけるよう配慮して関わっている。	室内は住まいらしく綺麗に改修されており、浴室やトイレも明るく、十分なスペースが確保され清潔が保たれている。居間の窓からは、広いグラウンドが眺められ、大型テレビ前の長ソファでは数人が思い思いに過ごしている。壁には大きな干支のちぎり絵と季節ごとの利用者の作品があり、心地よい居間とする配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置して共有空間をつくっている。畳間もあり、利用者の居心地のよい空間を選択できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を使用していただくよう、使い慣れた箸、コップ等を利用して頂いている。入所時、普段の関わりで要望がある場合、家族へ連絡をして用意をしていただいている。	居室は鳥や花の名前と表札があり、ベッドや、キャビネット、ソファ、ロッカー暖房器が備え付けてある。利用者は、使い慣れた自分の箸やコップを使い、ラジオや時計を置き、家族の写真や自分の作品を飾り自分らしい部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを設置しており、下肢筋力低下の見られる方も可能な限り自立した生活ができるようになっている。転倒にも配慮して床は衝撃をやわらげる素材を使っている。		